

# **GIGAスクール構想のもとでの 高等学校芸術科（書道）の指導について**

# GIGAスクール構想のもとでの芸術科（書道）の指導において ICTを活用する際のポイント

## 1. 高等学校芸術科（書道）におけるICTの効果的な活用

高等学校芸術科（書道）においては、用具・用材の特質・特性を体感したり、実物と直接向き合ったりする学習活動と、ICTを活用する学習活動とを、学習内容やその段階に応じて適切に関連付けながら、効果的に指導できるよう工夫することが重要である。

## 2. 新学習指導要領に示した「A表現」及び「B鑑賞」の指導におけるICTの活用

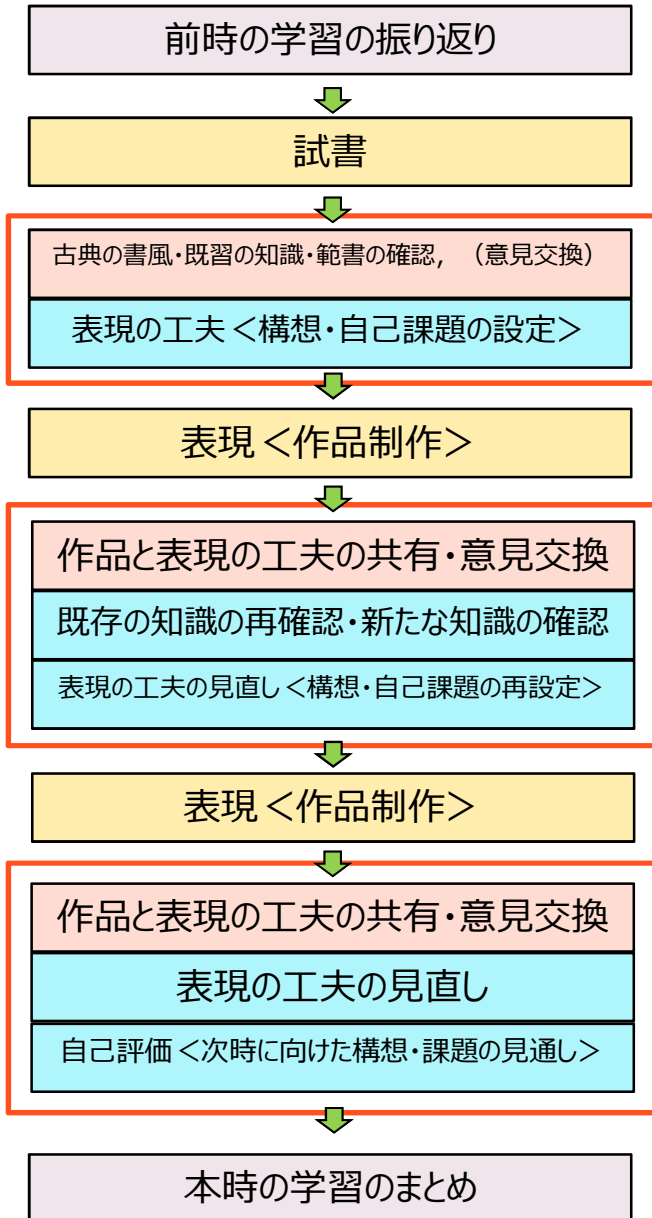
「A表現」では、「B鑑賞」との関連を図る上で、コンピュータやプロジェクタ、大型モニター等の機器や画像・映像教材を有効に活用することが求められる。範書の提示に広く活用される実物投影機（OHC）の他、映像撮影機器やタブレット型のコンピュータを活用し、生徒の制作過程を撮影し、クラス内での共有や対話を通して相互に考えを深める活動や、生徒の作品を撮影・記録・蓄積し、学習成果やその変容の比較・検証に主体的に取り組めるポートフォリオは、書道におけるICT活用の好例と言える。映像撮影機器を活用し、運筆での自身の筆などの運動を分析的に捉えたり振り返ったりすることは、書の重要な特性である運動性や時間性について主体的に深く考える上で有効である。

「B鑑賞」では、情報通信ネットワークを活用した調べ学習の他、「A表現」との関連を図る上で、映像機器や画像・映像教材を有効に活用することが求められる。「A表現」での生徒の制作過程及び作品の画像や映像を取り上げて生徒の作品の固有の価値について考えさせたり、実物と直接向き合えない古典や名筆、鑑賞の方法や場を考える上での教材となる展示物や建築様式等について、美術館、博物館等のWeb ページ掲載の画像を活用したりするなど、今次改訂で示した鑑賞活動の幅に対応した工夫が求められる。

# 高等学校・第1学年・芸術科（書道）・「書道Ⅰ」①

～「A表現」における臨書の学習とICTの活用～

## ＜学習過程＞



## 活動の目標

「書道Ⅰ」での「A表現」の古典の臨書においては、古典を通して、書体や書風と用筆・運筆との関わりや、用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解し、古典に基づく基本的な用筆・運筆や、古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付け、それらを得たり生かしたりしながら、古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成や、意図に基づいた表現について構想・工夫し、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとすることが目標となる。

## ICT活用のポイント

ICT機器、コンピュータ等のカメラ付きICT端末、学習支援ソフト等を使って、作品を共有して相互鑑賞や意見交換をしたり、学習の振り返りや表現の工夫に生かすことに主体的に取り組んだり、インターネット等により書の表現の多様性に触れたりする学習活動において、書の特質・特性に応じてICT端末の利点を生かし、効果的に活用することが重要である。

## 事例の概要

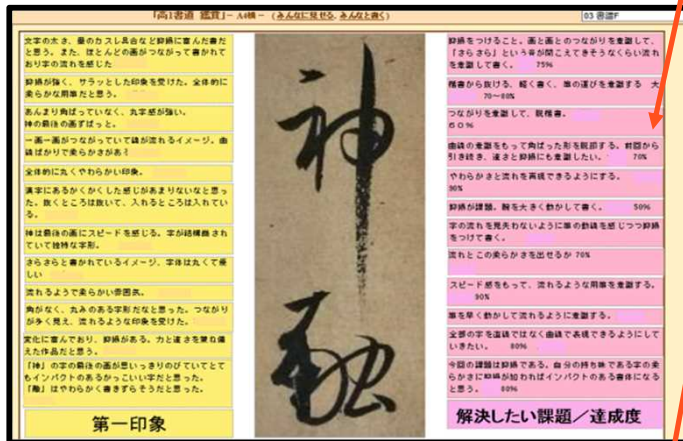
ここでは、臨書の学習過程の汎用的な例を取り上げている。ICT端末を活用する活動場面として、書風の特徴等を捉え理解を深めるために、示範動画や多様な例を示す場面、作品の共有・相互鑑賞及びそれに伴う意見交換で見方・考え方を働かせる場面、それぞれが表現の工夫の見直しに取り組む際、表現における自身の運筆の様子を撮影した動画や指導者による示範動画を主体的に振り返ったり繰り返して視聴したりすることにより、理解や思考を深めたり表現の工夫の幅を広げたりする場面などを設定している。



# 高等学校・第1学年・芸術科（書道）・「書道Ⅰ」②

～書の特質・特性に応じたICTの効果的な活用～

## 【作品の共有・相互鑑賞，意見交換】



## 【生徒自身の運筆動画の撮影】



## 【ICTの効果的な活用が期待される場面】

- ICT端末により撮影・記録した動画や画像をクラス全体で共有し、相互鑑賞や意見交換等の言語活動を、見方・考え方を働かせた全体によるリアルタイムでの意見交換へと充実・発展させる。
- 直接見たり触れたりすることができない資料や、実物では味わえないものの画像等を大画面やICT端末等で効果的に提示し、理解を深めさせる。
- 教科書や配付資料に加え、多様な作品や書の例を提示したり、インターネットを活用したりすることで、書の表現の多様さや書独特の表現性や表現効果への理解を深めさせる。
- 自身の学習過程・思考過程をデジタルポートフォリオとしてクラウドに記録・蓄積したものや、教師による個人および集団に対する指導の動画を、ICT端末を利用して生徒それぞれのペースで振り返ったり繰り返し確認したりできることで、自らが思考を深めながら学習を進めたり、主体的に表現の工夫に生かしたりすることを促す。

## 【ICT活用のメリットと留意点】

- 見方・考え方を働かせた他者との交流・言語活動を生かして、生徒それぞれのペースで学習を振り返り、自らが思考を深めながら主体的に学習を進めたりする上で効果的である。
- 書の特質・特性に応じて、運筆・線質等に関わる指導内容(遅速・緩急・抑揚・呼応等)や、運動性や時間性等について、動画のスロー再生等の機能を使って、生徒が主体的に理解を深める上で効果的である。
- 一方で、ICT端末による画像や動画では、書の多様な美や書の特質・特性に大きく関わる筆者の性情、呼吸、息づかい等は伝わりづらいため、ICTの利点を効果的に活用するとともに、従来の指導・学習の方法を適切に併用するなど、書の特質・特性に応じたICTの効果的な活用の工夫が重要である。

## 【活用したソフトや機能】

写真・動画撮影機能，学習支援ソフト